東京短資翌日物（圓）

	最高	最低	平均
十一月	八・五〇	七・〇〇	七・二一
十二月	七・五〇	七・〇〇	七・〇八
一月	七・〇〇	六・五〇	六・五九
二月	七・〇〇	六・五〇	六・九一
三月	七・〇〇	六・五〇	六・八七
四月	七・〇〇	六・五一	六・五一
五月	七・〇〇	六・五一	六・五一
六月（廿四日迄）	七・〇〇	六・五五	一

即チ、翌日拂ノ一ケ月平均ハ一月以來引續イテ、協定率七圓ヲ割リ月毎ニ低落歩調ヲ辿リツツアリ。翌日物ノカカル推移ト協定一流銀行筋ノ手許資金過剰ニ依リ、短資三〇日物モ又次ノ如ク漸落歩調ヲ

示シ來レリ。

短資三十日物（單）

	普通	最低
十一月	八・二五	八・〇〇
十二月	八・五〇	八・二五
一月	七・五〇	七・二五
二月	七・五〇	七・二五
三月	七・二五	七・〇〇
四月	七・〇〇	七・〇〇
五月	七・二五	七・〇〇
六月	七・二五	七・〇〇

(二)金融緩慢ノ原因

斯ノ如キ金融市場ノ軟化ハ概ネ左ノ諸原因ニ由來ス。

ノ、貿易ノ不振

貿易ノ項ニ於テ詳述セル如ク、本年當初以來貿易ノ萎縮著シク之カ爲、コール最大ノ恒常的吸收者タル爲替銀行カ爲替資金需要ヲ漸減シ來レリ。卽チ爲替銀行ノコール需要ハ今春頃迄ハ一ケ月三、四億円ト云ハレタルカ、五月中旬以降、ソノ需要殆ト皆無トナレリ。近キ將來ニ於ケル貿易不振ノ打開期シ得サル今日、コノ方面ヨリスル軟化ノ原因ハ依然持續スルモノト思ハル。

2. 政府資金ノ支拂進捗

本年四月末迄ノ國庫支拂超過額ハ次ノ如シ。

國庫支拂超過額（百万円　△印引揚超過）

	本年	前年同期
一月	四七	△一二二

月	二	三	四	計
	一七五	二四〇	二七八	八七八
	一七	二四	八一	〇・一六

即チ、前年ノ支拂超過額カ十六万円ナルニ比シ、本年ハ八億八千万円ニ近キ巨大ナル資金放出アリ、カカル政府資金支拂ノ進捗制ノ実施ト共ニ銀行ノ貸出ハ相對的ニ減退シ、且ツ政府支拂ニヨリ借入金ノ返濟カ增加セル結果、銀行預金ハ一層增加セシメラレタリ。

3. 各般ニ亘ル統制ノ強化

價格統制、配給統制ノ順次具体化スルニ伴ヒ、商品ノ思惑投資々金ノ需要カ減退シ、又貿易統制強化ノ結果、輸入原料ストック減少シテ、從來ノ手持資金カ預金化サレタルアリ。

4. 生產力擴充資金需要ノ停滯

軍需産業生産力ノ擴充ハ勿論強力ニ進行サレッツアルモ、擴充資材生産原料ノ不足テフ側面ヨリ幾多ノ障害ニ遭遇シ、從ツテ資金需要一時頓座セル形勢ヲ示セリ。一方、非軍需産業ノ擴充計畫ハ臨時資金調整法ニヨリ甚シク抑圧サルルニ至レルハ既述ノ如シ。カクテ計畫資本全体トシテモ一驗、増加停滯ノ氣配アルナリ。

5. 貯蓄奬勵ト消費節約

石カ何レノ程度迄行ハレッツアルヤ詳密ナル判斷ハ困難ナルモソノ徹底スルニツレテ、當然預金ノ増加ヲ齎ラシ、銀行手元資金ノ緩慢化ヲ助ケツツアルハ勿論ナリ。

(三)公債消化ノ狀況

以上ノ如キ金融緩慢、各金融機関ノ手許資金過剰ノ當然ノ結果トシテ公債ノ消化ハ極メテ旺盛ニシテ、年初ノ豫想ヲ遙ニ超ヘテ順調ニ進行シッツアリ・年初以來六月十四日迄ノ公債消化狀況ヲ概見スルニ次ノ如シ・

1.國債總發行高	一四五〇百万円
2.國債總消化高	一五一二〃
(A)日銀賣却高	一二六二〃
(一郵便局賣出ヲ含ム)	
(イ)預金部ヘ賣却高	二一〇〃
(ロ)其他官廳ヘノ賣却高	一六〃
(ハ)一般市中ヘノ賣却高	一〇五六〃
(B)預金部直接引受	二五〇〃
3.年初以來ノ公債消化率	一〇五・七%

即チ、本年上期ノ消化率ハ一〇〇%ヲ超ユル狀況ニシテ乙ヲ昨年下

期ノ国債發行高十三億円、消化高八億五千三百万円、消化率六五%ニ比スレハ著シキ好調ナリ。コノ情勢ニシテ激変ナシトセハ年内ニ幾何ノ公債ヲ消化シ得ヘキヤ。

今、昨年度実績及ヒ本年上半期ノ状況ヨリ、本年ニ於ケル新規蓄積資本額ヲ大約八十七億円ト推計シ、コレヨリ雑口要費十六億ヲ控除セル七十一億ヲ以テ、生産力擴充並ニ公債消化充當可能額ト見做セハ、公債消化ニ向ケラルル分ハ、悉ラク三十億円ヲ突破スルニ至ルヘシ。コレ既述セル如ク、一方ニ於テ巨額ノ軍費放出アリ、他方ニ於テ生産力擴充資金需要ノ制約サルル結果ニシテ、右ノ関係ヲ、昨年度ノソレト對比シテ表示スレハ、次ノ如シ。

（年度ハ暦年度ニヨル）

一、新規蓄積資本並国民貯蓄算定（單位百万円）

	昭和十三年 上期	昭和十三年 下期	昭和十三年 合計	昭和十二年 上期	昭和十二年 下期	昭和十二年 合計
(A)金融機関集積資本	一、九五五	二、一七二	四、一二七	一、四五二	一、五二五	二、七五七
(1)預金及貯金	一、六九五	一、九五七	三、六五二	一、一五八	一、一四九	二、二八七
(2)掛金	五五九	四五五	七九四	二五二	五五五	五八七
(3)相互預欠金控除分	△九九	△二二〇	△五一九	六二	△一七九	△一一七
(B)會社個人使用資本	二、一五一	二、四五〇	四、五六一	一、六五二	二、四九〇	四、一二二
(1)證券投資	一、四九一	一、七八〇	三、二七一	一、〇一〇	一、八四一	二、八五一
(2)自己再投資	六四〇	六五〇	一、二九〇	六二二	六四九	一、二七一
(C)新規資本集積額	四、〇八六	四、六〇二	八、六八八	三、〇六四	三、八一五	六、八七九
信用造出推定額	一、〇九五	一、二〇〇	二、二九五	一、〇八一	一、二〇四	二、二八五
国民貯蓄推定額	二、九九五	三、四〇二	六、五九五	一、九八五	二、六一一	四、五九四

二 公債消化力算定表（単位百万円）

	昭和十三年 上期	昭和十三年 下期	昭和十三年 合計	昭和十二年 上期	昭和十二年 下期	昭和十二年 合計
(A)新規資本蓄積額	四、〇八六	四、六〇二	八、六八八	三、〇六四	三、八一五	六、八七九
(B)公債以外ノ資金用途						
(1)事業投資	二、一八〇	二、三〇〇	四、四八〇	二、〇九八	三、三五二	五、四五〇
(2)維口投資	四九六	七六五	一、二六一	五一五	四一九	九三四
(3)重複若クハ他財源分控除分	△五九六	△四〇四	△八〇〇	△三五	△六六四	△六九九
(4)差引要資異額	二、〇八〇	二、六六一	四、七四一	二、五七八	三、一〇七	五、六八五
(C)公債消化力						
(1)AトBノ差額	一、八〇六	一、九四一	三、七四七	四八六	七〇八	一、一九四
(2)現金保留	一五〇	一六六	三一六	一一六	一〇七	二二三
(3)差引公債買入可能額	一、六五六	一、七七五	三、四三一	三七〇	六〇一	九七一

（註）維口投資ノ内容ハ海外放出、地方債、借金返済、個人財産投資

(四)金融ノ側面ヨリミタル生産力擴充

公債ノ消化順調ナルハ、ソレ自体トシテハ頗ル悦フヘキ現象ナリト雖モ、ソノ背後ニハ前述セル如キ貿易不振、生産力擴充資金需要ノ停頓等ノ事象カ伏在シツツアルコトヲ看過ス可ラス。殊ニ擴充資金需要ノ現在ニ於ケル一服狀態ハ、擴充順調ニ行ハレツツアルカ爲ニ需要停頓セルニ非ス、建設資材、原料等ノ不足ノ爲コレ以上ノ擴充強化不可能トナレルカ爲ニ、資金需要一服ノ狀況ニ入レルモノタリ。

凡ソ公債ヲ金融技術的ニ消化セシムルコトノミヲ主眼トスルモノナラハ、今日ノ如ク国家ノ金融統制力強大ナル時ニ於テハ、從來ノ觀念ニテハ考ヘラレサリシ程度ノ巨額消化モ必シモ不可能ニ非サルヘシ。然レトモ問題ハ公債ノ技術的消化ニ存セス、消化ニヨリテ政府カ調達セルソノ巨額ノ資金ヲ以テ獲得スヘキ物資カ、果シテ克ク生産サレ得ルヤ否ヤノ點ニアリ。從ツテ現在ノ如ク公債ノ消化ナル現象自体ノ眞ニ計畫セル生産力擴充ノ完行困難テフ現象ノ存スル時ハ、公債ノ消化ナル表面的現象ノミヲ以テ經濟ノ圓滑ヲ樂觀スルハ必シモ當ヲ得タルモ

ノニ非ルモノト云フヘシ。

第五(八)物

(一)物價騰貴ノ実勢

一、一般的傾向

本邦物價ハ昭和六年ノ恐慌時ヲ底トシテ、騰勢ニ轉シ、七年ニ入リテ爲替ノ低落、輸出ノ進展、財政膨張等ノタメ、次第ニ顯著ナ騰貴ヲ示シタルモ、九年以降ハ比較的緩慢ナ上昇ヲ持續シタリ、然ルニ十一年下期ニ至リ尨大ナ軍需ノ發展、爲替管理ノ強化ニ因ル物資供給ノ不足等ノ事情ニヨリ需要ノ急激ナル擡頭ヲ見タルニ加ヘテ、世界的高物價ノ現出ト相俟チテ、物價ハ急騰ヲ演シタリ

而シテ昨年四月ヲ最高トシ、ソノ後主トシテ海外物價低落ノ影響ヲウケテ反落シタルカ、支那事變勃發後ハ所謂戰時物價現象ヲ示スニ至レリ、

今事變發生以來今日迄ノ物價騰勢ヲ見ルニ、昨年末迄ニ於テハ、物價全體トシテハ保合ノ域ヲ出テス、卸賣物價ニ於テハ、事變發生當時ニ比シテ僅カニ一分、小賣物價ニ於テハ五分八厘ノ騰貴ヲ示セルニ過キス、コレ軍需品ノ増大ト、国際收支適合ノ爲ノ貿易統制ノ強化カ物價

騰貴ノ強材料ヲナシタルモ、ソノ反面、物價抑制策ノ發出、海外ニ於ケル物價安等、強軟兩材料ノ相殺シタル結果ナリ。然ルニ本年ニ入リテヨリハ輸入制限相次イテ強化セラレ、平和產業ハ次第ニ抑壓セラレ物資不足ノ結果、物價ハ强ク反騰ニ轉シ、本年一月以降五月ニ至ル五ケ月間ニ於テ、卸賣物價ハ三分二厘、小賣物價ハ八分八厘ノ騰貴ヲ示シタリ。

唯四月ニ於テハ、多少ノ反落アリタルモ、ソレハ思惑熱ノ冷却ニヨル商況ノ一般的不振ニ超因スル一時的現象ニ過キス、五月ニ入リテハ、再ヒ騰勢ニ轉シタリ。（物價ノ国際的比較ニ関シテハ貿易ノ部參照）

第一表　卸賣、小賣物價指數（昭和十二年七月ー一〇〇）

年月	卸賣物價	小賣物價
昭和十二年七月	一〇七〇	一〇七〇
八	九八二	一〇七九

昭和十二年九月	九九八	一〇三〇
十	九九〇	一〇三九
十一	九九五	一〇四三
十二	一〇一〇	一〇三八
一	一〇二七	一〇七一
二	一〇四四	一一〇四
三	一〇三三	一一八八
四	一〇三三	一一四六
五	一〇四二	一一四六
六	一〇六五	一一四二

（註）日銀調ヨリ換算

二、卸賣物價ト小賣物價

事変前ニオイテハ、專ラ卸賣物價ノ騰勢ハ小賣物價ノソレニ先驅シ、小賣物價ノ動キハ程ント見ルヘキナカリシモ、事変發生後ニ於テハ、

小賃銀指數ハ總キヘ低ク又見ルヘキモノアリ
事變前ニ於テハ小賃銀指數ハ卸賃銀指數ト小賃銀指數

（註）日銀調ヨリ発表

六	一〇六五	一〇六五	一〇六五	一〇六五
五	一〇六一	一〇六一	一〇六一	一〇六一
四	一〇六二	一〇六二	一〇六二	一〇六二
三	一〇六五	一〇六五	一〇六五	一〇六五
二	一〇六四	一〇六四	一〇六四	一〇六四
一	一〇六二	一〇六二	一〇六二	一〇六二
十二	一〇七〇	一〇七〇	一〇七〇	一〇七〇
十一	一〇七八	一〇七八	一〇七八	一〇七八
十	一〇八〇	一〇八〇	一〇八〇	一〇八〇
昭和十二年六月	一〇八八	一〇八八	一〇八八	一〇八八

兩者ノ關係ハ一變シ、卸賣物價ノ步ミノ停滯的乃至微弱的ナルニ反シ小賣物價ハ異常ナル騰勢ヲ示セリ、コレ等ノ事情ハ

第一ニ、當時政府ノ物價對策カ概ネ卸賣物價ヲ對象トシタル爲、卸賣物價騰勢ハ微弱ニ抑ヘラレタルニ反シテ小賣物價ハ商業機構ノ復雜サヨリ充分ナル統制ノ不可能ナリシコト

第二ニ、物品特別稅ソノ他ノ增稅ニヨリ、或ハ中間搾取ノ增大ニヨリ商品ハ消費者ニ近ツクニ從ツテ價格ヲ增ス傾向ニアリシコト

第三ニ、大衆的ニ思惑買ノ傾向カ幾然ナリシコト

等ニ原因スルモノト見ラレル。

ノ、卸賣物價

卸賣物價ニ於ケル騰勢ヲ見ルニ、金屬、工業藥品、肥料、建築材料等一昨年秋ヨリ春ニカケテ急騰ヲ演シタルモノハ、事變後比較的輕微ナリ、之ニ反シ燃料、被服地等ハ事變後、殊ニ昨年暮以降昂騰著シキモノアリ、之レ最近ノ物價騰貴カ原料殊ニ單需資材ヨリ漸次一般消費品ニ移リツヽアルヲ示スモノナリ。

	食用果実及其ノ加工品	茶、コーヒー、ココア及香辛料	飲料	煙草及煙草製品	其他雑貨	工匠技術者ノ労務	建築、土木、衛生工事	動力、電気、瓦斯及水道	運輸、倉庫及通信	公共団体ノ事業	官庁ノ事務	銀行、信託、保険、取引所、仲立業及問屋業	商業	農業、牧畜、林業及水産業	雇傭者ノ種類
七	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一九二四年
八	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一九二五年
九	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一九二六年
十	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一九二七年
十一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一九二八年
十二	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一九二九年
一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一九三〇年
二	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一九三一年
三	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一九三二年
四	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一九三三年
五	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一九三四年

（日給賃銀指数）

第二表

△雇傭者ノ種類別賃銀指数（一九二四年十二月ヲ一〇〇トス）

雇傭者ノ種類ニ依リ、公共団体ノ事業ニ於ケル賃銀ハ官庁ノ事務ニ於ケル賃銀ニ比シ、銀行、信託、保険、取引所、問屋業ニ於ケル賃銀ハ商業ニ於ケル賃銀ニ比シ、夫々著シク高率ナリ。

（日銀調査ヨリ換算）

	七月	八	九	十	十一	十二	一	二	三	四	五
工業藥材	一〇〇	一〇〇	一〇二	一〇二	一〇二	一〇八	一〇八	一〇〇	一〇一	一〇四	一〇六
器材	一〇〇	一〇〇	一〇二	一〇六	一〇七	一〇八	一一〇	一一〇	一一七	一一五	一一四
燃料	一〇〇	一〇一	一〇一	一〇二	一〇四	一〇五	一〇六	一〇五	一〇六	一〇六	一〇四
金屬類	一〇〇	一〇五	一〇六	一〇五	一一四	一一五	一一六	一一六	一一一	一一五	一一七
建築材料	一〇〇	一〇八	一〇一	一〇一	一〇八	一一五	一〇八	一一一	一一七	一〇二	一〇六
布帛類	一〇〇	一〇四	一〇七	一〇五	一〇五	一〇七	一〇八	一〇五	一一一	一一三	一一七
雜貨類	一〇〇	一〇三	一〇六	一〇六	一〇五	一〇五	一〇五	一〇六	一〇八	一〇八	一一一
割引品	一〇〇	一〇〇	一〇一	一〇一	一〇〇	一〇六	一〇五	一〇五	一〇八	一〇八	一〇六
其他食料及食用品通物	一〇〇	一〇〇	一〇一	一〇一	一〇〇	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇四	一〇四

△卸賣物價

第二表　卸賣物價ノ推移（昭和十二年七月—一〇〇）

[illegible]

2. 小賣物價

卸賣物價ノ昇騰カ小賣物價ノ上昇ヲ齎ラス事ハ言ヲ須タス、從ツテ小賣物價ニ於テモ、事変發生以來、最モ上昇セルハ燃料燈火關係、服飾用品ニシテ、前者ハ事変發生時ニ比シ三割一分、後者ハ二割一分ノ騰貴ヲ示シ、之ヲ昭和十一年上期ニ比スレハ兩者トモ四割以上ノ昇騰トナレリ、

注目スヘキハ食料品ノ騰貴最モ弱ク事変發生時ニ比シ一割程度高ニ過キサルコトナリ、コレ大戰時歐洲列国ニ於テ物價騰貴カ、先ス食料品部門ニ現ハレタルコト、大イニ趣ヲ異ニスルトコロニシテ、日本戰時經濟ノ最大ノ强味ト云ヒ得ヘシ。

第三表　小賣物價ノ推移（昭和十二年七月—一〇〇）

△小賣物價

	七月	八	九	十	十一	十二	一	二	三	四	五	六
食料品	一〇〇	一〇二	一〇五	一〇七	一〇六	一〇七	一〇九	一一〇	一一〇	一一二	一一一	一一〇
燃料燈火	一〇〇	一〇一	一〇二	一〇六	一一五	一一六	一一五	一一九	一一九	一二一	一二一	一二一
服飾用品	一〇〇	九九	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇二	一一八	一二〇	一二一	一二一	一二一
ソノ他	一〇〇	一〇〇	一〇一	一〇一	一〇二	一〇三	一〇四	一〇六	一〇九	一一一	一一二	一一三

（日銀調査ヨリ換算）

（日銀調査より抜萃）

	綿糸	綿織物	人絹織物	人造絹糸	生糸
昭和八年十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
九年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
十年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
十一年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
十二年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
十三年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
十四年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
十五年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
十六年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
十七年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
十八年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
十九年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
二十年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
二十一年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
二十二年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
二十三年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
二十四年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
二十五年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
二十六年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
二十七年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
二十八年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
二十九年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
三十年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
三十一年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
三十二年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
三十三年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
三十四年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
三十五年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
三十六年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
三十七年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
三十八年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
三十九年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
四十年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
四十一年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
四十二年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
四十三年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
四十四年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
四十五年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
四十六年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
四十七年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
四十八年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
四十九年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
五十年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
五十一年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
五十二年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
五十三年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
五十四年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
五十五年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100
五十六年一月	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100

貿易品物價指數（卸賣）

（昭和六年十二月＝一〇〇）

	輸出商品	輸入商品	金巾	人絹織物	生糸	人絹糸
昭和十一年十二月末	一六七・一	二六一・一	二四八・八	一七〇・一	一六四・一	一二六・八
昭和十二年　六月末	一六三・三	二七六・六	二二〇・四	一四一・八	一五五・七	一二〇・四
昭和十二年十二月末	一三四・六	二七二・七	二一〇・八	一一六・〇	一二三・六	一〇二・八
昭和十三年　五月末	一六〇・〇	二六九・七	二九〇・一	一三九・二	一二六・八	一二六・八

（三菱經濟研究所調査ニヨル）

（三）生計費

四、生計費

昨年七月ヲ基準トスル内閣統計局ノ生計費指數ヲ見ルニ、本年六月ニ於テ勞動者九分、給料生活者八分四厘ノ上昇ヲ示セリ・小賣物價カソノ間約一割五分ノ騰貴ヲ示セルニ比較スレハ、其上昇ハ緩慢ト云フヘシ、之レ指數構成内容ノ差異ト生計費指數ニウエイトノ附セラレタルコト、ニ原因ス・生計費ノ主要項目ニツイテミルニ被服費ノ上昇最モ甚シク二割三分、次キハ光熱費ノ一割六分ニシテ、飲食費ハ八分程度

ノ騰貴ニ過キス、

生計費指数（昭和十二年七月＝一〇〇）

	總指数	勞働者	飲食費	住居費	光熱費	被服費	其ノ他
昭和十二年八月	一〇〇・六	一〇一・一	一〇〇・一	一〇一・〇	九八・七	一〇一・〇	
十月	一〇一・八	一〇二・五	一〇〇・一	一〇六・七	一〇〇・六	一〇一・四	
十二月	一〇三・〇	一〇三・九	一〇〇・五	一一一・四	一〇一・五	一〇二・一	
一月	一〇四・四	一〇六・二	一〇〇・六	一一二・七	一〇二・九	一〇二・三	
二月	一〇五・八	一〇七・二	一〇〇・二	一一三・四	一〇九・二	一〇二・五	
三月	一〇六・八	一〇七・七	一〇一・六	一一三・五	一一三・四	一〇二・七	
四月	一〇八・〇	一〇八・八	一〇二・〇	一一三・八	一一六・七	一〇三・四	
五月	一〇八・三	一〇八・二	一〇二・五	一一四・四	一一八・七	一〇四・二	
六月	一〇九・〇	一〇七・八	一〇三・一	一一六・二	一二二・八	一〇四・七	
給料生活者							
昭和十一年八月	一〇〇・六	一〇一・二	一〇〇・一	一〇〇・九	九八・八	一〇一・〇	
十月	一〇一・八	一〇二・五	一〇〇・二	一〇六・二	一〇〇・八	一〇一・三	
十二月	一〇二・九	一〇三・七	一〇〇・四	一一〇・六	一〇一・六	一〇二・三	
一月	一〇四・二	一〇六・三	一〇〇・五	一一一・三	一〇三・一	一〇一・九	
二月	一〇五・五	一〇七・二	一〇一・〇	一一一・七	一〇九・七	一〇二・〇	
三月	一〇六・三	一〇七・五	一〇一・四	一一一・九	一一三・八	一〇二・三	
四月	一〇七・五	一〇八・六	一〇一・七	一一二・二	一一七・三	一〇三・〇	
五月	一〇七・七	一〇七・九	一〇二・一	一一二・九	一一九・四	一〇三・七	
六月	一〇八・四	一〇七・七	一〇二・六	一一四・四	一二三・五	一〇四・〇	

（内閣統計局調査）

五、賃銀指数

一般的ニ賃銀ノ上昇ハ物價騰貴ノソレニ及ハサルコト從ツテ物價騰貴ノ影響ハ勤勞階級ニ於テ最モ深刻ナルモノアルハ周知ノ如クナルカ、事変發生後ノ賃銀指数ヲ見ルモ、斯カル現象ハ極メテ著シク現ハレ昨年七月以降定額賃銀ノ上昇ハ僅カニ八厘、実收賃銀ト雖モ四分六厘ニシテ、実質賃銀ニ於テハ、物價騰貴ノ結果、却ツテ二分ノ低下ヲ見ルノ狀況ニアリ。

実質賃銀指数（大正十五年—一〇〇）

	昭和十二年七月	十二月	十三年一月	十三年七月ト十三年一月トノ指数ノ開キ
定額賃銀	八三・〇	八三・三	八三・八	〇・八
実收賃銀	九六・三	一〇二・九	一〇〇・九	四・六
小賣物價	八七・〇	九一・七	九二・八	五・八
実費賃銀	一一〇・七	一一二・一	一〇八・七	二・〇

（註）日銀調

(二)政府ノ物價對策

抑々戰時經濟ノ下ニ於テハ巨額戰時財政ノ遂行ニ伴フ、戰時インフレノ進展並ニ物資不足ノ兩面ヨリ、或ル程度ノ物價騰貴ヲ來スコトハ大戰時列國ノ經驗ノ示ストコロナルカ、物價騰貴ノ異常ナル進行ハ、惡性インフレノ展開、物資需給ノ停頓、一般民衆ノ窮乏ヲ惹起シ、戰爭遂行ニ重大ナル支障ヲ來スニ止マラス、場合ニヨッテハ、經濟界ヲ混亂ニ導キ、經濟的破綻ヲ來スコト無キヲ保シ得ス、ヨッテ戰時物價政策ハ戰時經濟政策上、最モ重要ナル事項ニ屬スル。

然ラハ事變發生以來政府ハ物價抑制策ニ如何ナル處置ヲ採レルカヲ見ルニ、昨年七月ヨリ同年末マテヲ第一期、本年一月以降五月マテヲ第二期本年六月ヨリ後ヲ第三期トナスヲ得ヘシ

一、第一期物價對策

ノ暴利取締令ノ改正

事變發生後、最初ノ應急的物價對策トシテ採ラレタルハ暴利取締令ノ改正ナリ。同令ハ大正七年農商務省令トシテ公布サレタルモノナ

（ロ）政府ノ物価対策

抑々戦時経済ノ下ニ於テハ巨額戦時財政ノ遂行ニ伴ヒ、戦時インフレ通貨ノ増発ニ物資ノ不足ノ両面ヨリ、更ニ強度ノ物価騰貴ヲ来スコトハ大戦時列国ノ経験ノ示ストコロナルカ、物価ノ異常ナル進行ハ、悪性インフレノ展開、物資需給ノ作用、一般民衆ノ騒擾ヲ誘起シ、戦争遂行ニ重大ナル支障ヲ来スニ止マラス、場合ニヨツテハ、経済界ヲ混乱ニ導キ、経済的破綻ヲ来スコト無キヲ保シ得ス。ヨツテ戦時物価政策ハ戦時経済政策上、最モ重要ナル問題ニ属スル。

然ラハ事変発生以来政府ハ物価調節ニ如何ナル措置ヲ採レルカヲ見ルニ、昨年七月ヨリ同年末マテヲ第一期、本年一月以降五月マテヲ第二期本年六月ヨリ後ヲ第三期トナスヲ得ヘシ

イ、第一期物価対策

1. 暴利取締令ノ改正

事変勃発後、最初ノ臨急的物価対策トシテ採ラレタルハ暴利取締令ノ改正ナリ。同令ハ大正七年農商務省令トシテ公布セラレタルモノナ

ルカ、昨年八月、十月ノ両度ニ亘リ改正ヲ行ヒ、同法令ノ適用範囲ヲ八品目ヨリ二十七品目ニ拡大スルトトモニ、販売価格ノ公示、罰則ノ重加ヲ図リ、モッテ事変ヲ口実トスル暴利取締ノ具トナセリ

2. 最高価格制度

事変ノ拡大ニヨリテ暴利取締令ノミニテハ不充分ナルコト明ラカトナリタルタメ、政府ハ更ニ一歩ヲ進メテ価格統制ニ着目シ、重要産業統制法ソノ他重要物産同業組合法、貿易組合法、工業組合法、商業組合法、産業組合法等ノ統制規定ニ価格協定及ヒ共同販売ノ条項ヲ挿入セシメ、カルテル、トラストニ対スル不当ナル協定価格ノ抑止ヲ図リ、次イテ昨年十月ニ至リテハ、業者ノ自主的協定ニ基キ、最高価格制ヲ制定シ、先ツ綿業部門ニ実施シ、ジーンス、綿三綾、人絹混紡糸ニ適用セリ

3. 消費及配給ノ統制

戦時物価騰貴ハ、戦争需要ノ飛躍的増大ニ出発スル物資供給ノ不足ニ起因スルヲモッテ、物価ソレ自体ノ抑圧ヲ図ルト同時ニ、物資ノ

不足補塡策トシテ配給及消費ノ統制ヲ実行スルニ非サレハ所期ノ目的ヲ達シ得サルコト明ラカナリ、ヨッテ政府ハ、昨年秋ニ至リ、先ッ、石油消費統制ヲ断矢トシ、次イテ工作的鉄鋼、鑞、銅、白金ノ使用制限、毛製品ニ対スルス・フノ混用等重要物資ニ対シ消費統制ヲ強行スルホカ、硝酸、生ゴムニ対シテ配給統制ヲ開始セリ

二、第二期物価対策

イ、統制ノ強化

第一期ニ於テハ、未タ国内ストックノ豊富ナリシタメ、右ノ如キ対策ヲモッテ、尚ホヨク物価騰貴ヲ抑止シ得タルモ、本年一月以降第二期ニ入リテハ、対外的封鎖経済的傾向ノ強化、ストックノ減少難平和産業ノ原料難、輸送難シミ買溜メノ蔓延、労働力ノ不足等ノタメ物価ノ騰勢ハ著シク強マレルヲ以テ、政府ノ物価対策モ漸ク真剣味ヲ帯ヒルニ至レリ

ロ、消費、配給、価格統制

即チ消費統制トシテハ繊維品ニ対スルス・フノ混用、水銀ノ優先販

資制・配給統制トシテハ、綿糸、揮發油、重油ノ割當乃至切符制度ヲ実施セリ。又價格統制ニ於テハ輸出入臨時措置法ニ基ク商品別需給調整協議會ニ於テ決定セル最高價格ヲ商品コトニ、單行省令トシテ公布、ソノ價格ヲ一般販賣業者ヲシテ遵守セシメ、脫法行爲ニ對シテハ嚴重處罰スルコトトセルカ、斯ノ如ク從來ノ自主的統制ヨリ強權的統制ヘ移行セルハ、政府ノ物價對策ニ於ケル一大飛躍ヲ來スモノト云フヘシ。

尙ホ本年初當以來インフレ防止策トシテ進メラレツヽアル消費節約運動モ亦、需給ノ不均衡ヲ大衆購買ノ側面ヨリ調整セントスル消費統制ノ見地ニ出發スルモノナリ。

三、第三期物價對策

事變發生後、一周年ヲ迎ヘントシ、本邦戰時体制ハ長期戰ニ對應シテ、愈々本格化シ、物價政策モ愈最高段階ニ達セサルノ機構ノ充實（物價統制機構圖參照）

物價委員會（四月二十五日設置）臨時物資調整局（五月九日設置）

ノ活動モ漸ク活潑トナリ、物價指導機構モ漸次完備ヲ見タリ。

2.池田藏商相ノ登場

而シテ池田藏商相ノ登場ニヨリ、輸出増進ノ見地ヨリ從來ノ高物價ニヨル物價政策ニ一大轉換ヲナシ、物價ヲ可及的低廉、場合ニヨリテハ事變前ノ水準ヘノ引キ下ケスラ考慮スルニ至リ物價政策ハ極メテ強襯的色彩ヲ濃厚ニセリ。

3.非常管理

即チ池田商相ハ物資動員計畫ト對應シ、臨時輸出入措置法ニ基キ民需ノ消費制限、若シクハ使用禁止ノ擧ニ出テ六月末ヨリ七月上旬ニカケ、綿製品、皮革ノ非常管理（使用制限、價格取締、配給統制）ヲ斷行セリ。

4.物品販賣價格取締規則（七月九日）

物價委員會ノ手ニヨル標準價格ノ設定、暴利取締令ノ晩ミニヨッテハ物價抑制上不徹底ヲ免レサルタメ、新ニ商品全般ニ對スル物價公定價格制ヲ採用スルトトモニ、コレノ豫備的措置トシテ物價引上禁

止ニ関シテモ規定スルコトトナリ、輸出入品臨時措置法第二條ニ基キ右ノ兩者ヲ合体シテ商工省令「物品販賣價格取締規則」トシテ纏メ、コレヲ去ル七月九日公布即日施行セリ

同省令ハ質範圍ノ物價管理令トモ稱スヘク、

「商工大臣カ告示ニヨツテ物品ヲ指示シタル場合ハソノ前囘ノ價格

以上ニ引上ケルコトヲ禁スル

ニ商工大臣又ハ地方長官カ告示ニヨリ、卸小賣トモ價格ヲ公定シタル場合ハコレヲ最高價格トシテ嚴ニ遵守セシメル

ノ二點ヲ骨子トシ、我カ物價政策トシテハ正ニ劃期的飛躍ヲ示スモノニシテ、之ヲ轉機トシテ從來ノ物價昂騰ニ對スル消極的抑制方針ヨリ更ニ進ンテ積極的ナ物價引下ケヲ企圖セントスルモノナリ。

而シテ第一囘指示品目トシテハ同日廠製品ソノ他合計十四品目カ指定セラレタリ。

ふ消費統制ノ强化

政府ハ右價格取締規則ト同時ニゴムノ非常管理、鉛、錫、アンチモ

ン、ニツケルノ民需使用禁止、米松ノ民需販賣禁止、工作機械ノ平和產業供給ノ遮斷ヲソレソレ斷行、引續キ紙、木材各種ノ化學工業殘リノ非鉄金屬等ノ物資ニ對シテモ使用制限規則ヲ制定スヘク目下準備中ナリ。

6.暴利取締令ノ改正

同令ハ事變發生以來二回ニ亘ル改正アリ、現在適用品目三十四種ニ上レルカ、更ニ近ク改正スヘク準備中ナリ、改正要點ハ(一)適用商品ノ範圍擴張、(二)商品販賣價格ノ標記義務制ノ二點ニシテ、ソノ目標ハ單ナル商品價格ノ騰勢阻止ニアラスシテ、中央、地方兩物價委員會ノ本格的活動ト相俟ツテ積極的物價引下ケヲ斷行セントスルニアリ

7.經濟警察制度

物資動員計畫ノ万全ヲ期シ、統制法令違反ノ取締檢擧、經濟統制ニ關スル情報事務、特殊ノ物資配給ノ執行事務ヲ主目的トシテ、內務省ニ於テ經濟警察制度ノ確立ヲ期シタ、去ル七月八日ヨリ之カ実施

ニ入レリ。

ベシ、米俗ノ外観ヲ飾リ、内容ノ充実ヲ怠ルガ如キ傾向ハ絶エズ警戒セラレ、木材会館、工科教育館等ノ建築ニ於テモ此ノ点ニ留意シ、不要ノ装飾ヲ省キ、実用ニ即シ、堅牢ニシテ、且ツ衛生的ナル構造ヲ採ルヲ要ス。

尚ホ本館ノ建築ニ関シテハ、既ニ昨年度ニ於テ、其ノ設計ヲ終リ、本年度ニ於テ、其ノ建築ニ着手スル予定ニテ、目下鋭意其ノ準備ヲ進メツヽアリ。

（ロ）

木材ノ乾燥ハ、木材ノ利用上極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ乾燥ハ、主トシテ天然乾燥ニ依リ来リシガ、近時人工乾燥ノ研究ト、其ノ実施ノ進歩ニ伴ヒ、人工乾燥ノ利用ハ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル人工乾燥ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営製材所ニ於ケル実施約二百万石、(ロ)民営製材工場ニ於ケル実施約八百万石、(ハ)木材問屋ニ於ケル実施約二百万石ニシテ、(ニ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、人工乾燥ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ハ）

木材ノ防腐処理ハ、木材ノ耐久力ヲ増加シ、其ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ防腐処理ハ、主トシテ枕木ニ対シテ行ハレ来リシガ、近時枕木以外ノ木材ニ対スル防腐処理ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル防腐処理ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)電信柱ニ於ケル実施約百万石、(ニ)其ノ他ノ実施約百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、防腐処理ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ニ）

木材ノ防火処理ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ防火処理ハ、主トシテ建築物ニ対シテ行ハレ来リシガ、近時建築物以外ノ木材ニ対スル防火処理ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル防火処理ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営建築物ニ於ケル実施約四百万石、(ロ)民営建築物ニ於ケル実施約四百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、防火処理ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ホ）

木材ノ防虫処理ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ防虫処理ハ、主トシテ建築物ニ対シテ行ハレ来リシガ、近時建築物以外ノ木材ニ対スル防虫処理ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル防虫処理ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営建築物ニ於ケル実施約四百万石、(ロ)民営建築物ニ於ケル実施約四百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、防虫処理ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ヘ）

木材ノ腐朽、虫害、火災等ニ対スル保険ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ保険ハ、主トシテ建築物ニ対シテ行ハレ来リシガ、近時建築物以外ノ木材ニ対スル保険ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル保険ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営建築物ニ於ケル実施約四百万石、(ロ)民営建築物ニ於ケル実施約四百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、保険ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ト）

木材ノ品質検査ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ品質検査ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル品質検査ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル品質検査ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、品質検査ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（チ）

木材ノ規格ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ規格ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル規格ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル規格ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、規格ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（リ）

木材ノ標準ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ標準ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル標準ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル標準ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、標準ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ヌ）

木材ノ検査ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ検査ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル検査ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル検査ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、検査ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ル）

木材ノ試験ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ試験ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル試験ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル試験ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、試験ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ヲ）

木材ノ統計ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ統計ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル統計ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル統計ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、統計ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ワ）

木材ノ輸出ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ輸出ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル輸出ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル輸出ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、輸出ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（カ）

木材ノ輸入ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ輸入ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル輸入ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル輸入ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、輸入ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ヨ）

木材ノ消費ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ消費ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル消費ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル消費ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、消費ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（タ）

木材ノ生産ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ生産ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル生産ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル生産ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、生産ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（レ）

木材ノ販売ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ販売ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル販売ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル販売ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、販売ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ソ）

木材ノ運搬ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ運搬ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル運搬ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル運搬ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、運搬ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ツ）

木材ノ貯蔵ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ貯蔵ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル貯蔵ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル貯蔵ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、貯蔵ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ネ）

木材ノ加工ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ加工ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル加工ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル加工ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、加工ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ナ）

木材ノ利用ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ利用ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル利用ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル利用ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、利用ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ラ）

木材ノ改良ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ改良ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル改良ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル改良ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、改良ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ム）

木材ノ保存ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ保存ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル保存ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル保存ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、保存ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ウ）

木材ノ利用ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ利用ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル利用ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル利用ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、利用ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ヰ）

木材ノ改良ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ改良ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル改良ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル改良ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、改良ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ノ）

木材ノ保存ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ保存ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル保存ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル保存ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、保存ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（オ）

木材ノ利用ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ利用ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル利用ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル利用ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、利用ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ク）

木材ノ改良ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ改良ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル改良ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル改良ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、改良ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ヤ）

木材ノ保存ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ保存ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル保存ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル保存ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、保存ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（マ）

木材ノ利用ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ利用ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル利用ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル利用ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、利用ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ケ）

木材ノ改良ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ改良ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル改良ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル改良ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、改良ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（フ）

木材ノ保存ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ保存ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル保存ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル保存ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、保存ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（コ）

木材ノ利用ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ利用ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル利用ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル利用ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、利用ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（エ）

木材ノ改良ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ改良ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル改良ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル改良ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、改良ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（テ）

木材ノ保存ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ保存ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル保存ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル保存ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、保存ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ア）

木材ノ利用ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ利用ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル利用ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル利用ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、利用ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（サ）

木材ノ改良ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ改良ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル改良ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル改良ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、改良ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（キ）

木材ノ保存ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ保存ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル保存ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル保存ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、保存ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ユ）

木材ノ利用ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ利用ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル利用ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル利用ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、利用ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（メ）

木材ノ改良ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ改良ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル改良ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル改良ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、改良ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ミ）

木材ノ保存ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ保存ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル保存ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル保存ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、保存ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（シ）

木材ノ利用ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ利用ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル利用ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル利用ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、利用ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ヒ）

木材ノ改良ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ改良ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル改良ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル改良ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、改良ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（モ）

木材ノ保存ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ保存ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル保存ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル保存ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、保存ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（セ）

木材ノ利用ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ利用ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル利用ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル利用ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石、(ロ)民営鉄道ニ於ケル実施約二百万石、(ハ)其ノ他ノ実施約二百万石ト推定セラレ、中央、地方試験所ニ於テモ、利用ニ関スル研究ヲ行ヒ、其ノ成績ヲ発表シテ、実施者ノ参考ニ資シツヽアリ。

（ス）

木材ノ改良ハ、木材ノ利用ヲ広ムル上ニ於テ、極メテ重要ナル事項ニシテ、従来ノ改良ハ、主トシテ官営鉄道ニ於テ行ハレ来リシガ、近時官営鉄道以外ノ木材ニ対スル改良ノ実施モ、漸次増加ノ傾向ヲ示シ来リ、大正十四年ニ於ケル改良ノ実施ハ、約一千万石ニ達シ、其ノ内訳ハ、(イ)官営鉄道ニ於ケル実施約六百万石

(三)將來ノ見透シ

一、從來ノ近衛内閣ノ物價政策ヲ見ルニ首尾一貫セルモノナシ、即吉野商相ニ於テハ高物價政策ニヨリ輸出商品ノ抑制ヲ圖ラントセルモ、輸出貿易ヲ停頓セシメ、我國際收支ヲ危殆ニ陷レ、時局ヲ重大ナル局面ニ導カントセリ、其處ニ池田藏商相ノ登場ヲ見、從前ノ高物價政策ヨリ反轉シテ低物價政策ヲ採リ、物價ノ徹底的抑制ヲ企圖スルニ至レリ、斯クノ如キ政策ノ浮動ニモ不拘物價昂騰ヲ事變發生時ニ對シ一劃内外ニ止メ得タルハ、本邦經濟ノ强靱性ヲ示スモノト云フヘシ。

二、乍然最近ノ物價高ハ各種資材ノ輸入制限、供給不足ニヨル物資需給不圓滑ニヨリ生スル必然的現象ナルヲモツテ今後トモ物價騰勢ノ强化サルヘキハ自ラ明ラカナリ。然ルニ當面物價對策ハ販賣價格取締規則及ヒ改正暴利取締令ノ二本建ニヨル强力ナル前進ヲモツテ正ニ最高段階ニ達シタルモノト云フヘシ、更ニ物價騰勢ノ繼續スル場合ニアリテハ、輸出入臨時措置法ニ基ク、諸省令又ハ暴利取締令ノミニヨ

ヨッテハ国民生活ノ防衛ヲ期シ難ク、更ニ高度ノ法規トシテ国家総動法ノ発動ヲ必要トスルニ至ルヘシ、即チ同法第十九條ニ於テハ生活必要品ノ暴利取締ヲハシメ、運送賃、保管料、保険料、賃貸料ニ関シ必要ナル命令ヲ発スル事ヲ得ヘキ旨ヲ規定シアルヲ以テ之ニヨリ一切ノ物品ニ対スル価格管理ヲ実施セントスルナリ。

サレハソノ後更ニ物価騰勢アル場合ハ人間欲望ノ統制乃至管理アルノミ、之レ物価抑制策ノ最終的段階ニシテ、国民ノ日常生活ハ之ニヨッテ一変スルニ至ルヘシ。

勿論、斯クノ如キ事態ハ現在ノ第三期ヨリ次ノ第四期ニ至レル場合ノコトニ属スルモ、内外諸般ノ情勢ヨリ見テ物価騰勢ノ推移ハ、斯ル事態ヘノ急速ナル発展過程ニアルモノト見ルヘシ。

第五(B)爲替

B、爲替

(一)爲替ノ実情

本邦對外爲替相場ヲ對英一志二片ニ堅持スルコトハ近衛内閣ノ国策トシテ、官民一致其カ維持ニ努力シツツアル所ナルカ、事変以來我国際収支ハ莫大ナル支拂超過ヲ來シ、爲ニ在外資金涸渇シ、昨年度数億ノ金ヲ現送シ（後述海外支拂手段參照）極端ナル爲替管理ト輸入抑制ヲ行ヒ辛ウシテ相場ヲ維持スルノ実情ナリキ。十三年ニ入リテモ貿易及貿易外収支ハ依然トシテ好轉セサルニ由リ、政府ハ只管ニ国際収支適合ノ一事ニ狂奔シ殆ト他ヲ顧ミルノ暇ナキカ如シ

先ニ（昭和十二年八月）各爲替銀行ハ爲替水準堅持ノ国策ニ順應スル爲、對英爲替第一回協定ヲ締結シ、對英實相場一志二片以上、同買相場（三ヶ月拂銀行信用狀付手形）一志二片以上トシタルモ、對米相場ハ實買共對英一志二片ヲ基準トシテ各行適當ナリト認ムルレートヲ採用スルコトトシタル爲、英米クロスノ変動激シキ時ニ於テハ市中對米相場カ對英相場ト英米クロストノ裁定ヨリ可成リ離レ種々面白カラサ

ル影響ヲ蒙起スル怖アリタリ。其実例ヲ示セハ次ノ如シ。

年月	對英	英米クロス	對米裁定 (A)	對米 (B)	(A)−(B)
十二年三月	一志一二片	弗 四・八八六	弗 二八・五〇二	弗 二八・四四七	弗 〇・〇五五
九月	〃	四・九五四	二八・八九八	二八・七九〇	〇・一〇八
十三年一月	〃	五・〇〇〇	二九・一六七	二八・九七〇	〇・一九七
二月	〃	五・〇一八	二九・二七二	二八・九五七	〇・三一五
三月	〃	四・九五八	二八・九二二	二八・八一三	〇・一〇九

「對米裁定相場ハ{日英相場（片）×英米クロス（弗）×一〇〇}ノ算式ニ據ル
　　二四〇（片）

仍テ大藏省及日本銀行當局ニ於テハ、各爲替銀行ニ對シ對米相場ノ協定締結ヲ勸奬スル所アリ、二月二十二日協定成立シ翌日ヨリ對米電信賣相場ハ對英一志二片ヲ基礎トシ、前日ノ英米クロスニ依リ裁定シタル相場ニ依リ、同電信買相場ハ同賣相場ヨリ 1/32 高トスルコト並ニ其

他諸條項ノ締結ヲ見タリ・尙本協定ニハ外国銀行側ニ於テモ協力スル諒解成立シタリ・

對米爲替協定成立ニ伴ヒ四月四日前述對英爲替協定モ亦細目協定ヲナシ、五日ヨリ電信賣相場一志二片1/64、其他諸條項ヲ締結セリ・尙其他ノ各地向爲替ニツキテモ細目協定ヲナシ、一志二片堅持ノ国策ニ副フヘシトノ意見爲替銀行筋ニ抬頭シツツアリ之ハ對米相場ノ場合ト同シク當然ノコトニ屬ス・

(二)一志二片堅持論

嘗テ對米爲替相場カ英米クロスヨリ裁定セル對米相場ヨリ下廻ルニ至レルハ、畢竟スルニ銀行カ米国向輸出手形ヲ買漁リタル結果ニ外ナラス、輸入超過ノ續ク限リ已ムヲ得サル現象ナリ・素ヨリ、国際收支ノ適合ナク、且其他ノ爲替動因ノ我国ニ不利ナル今日ニ於テ、爲替ヲ堅持スルコトハ、相當ノ無理アルモノナルカ、敢テ之ヲ主張セムトスル論者ノ理由トシテ掲クルモノ次ノ如シ・

(イ)時局ニ際シ必要ナル輸入ヲ確保スル上ニ不可缺ノ要件ナリ。

(ロ)爲替低落ハ外国貿易上輸出増進、輸入抑制ノ效果アルカ如キモ、現下ノ国際情勢ニ於テハ爲替ダンピング税其他ノ政策ヲ採ラルル怖アルヲ以テ却ツテ不利ナリ。

(ハ)爲替下落ハ必然的ニ物價騰貴、インフレーションヲ齎ス。

(ニ)爲替一度低落スルトキハ其止マル所ヲ知ラス低落シ、本邦經濟ヲ根底ヨリ破壞スヘシ。

(四)結語

(三)一、二ヶ故業論
他方爲替相場竝ニ反對ス
ル所ノモノアリ、其ノ理由トスル所ハ左ノ如シ。

(イ)爲替ノ變動ハ貿易ニ影響ヲ及ボスコトナシ。
(ロ)本邦品劃高ニ基ク爲替相場低落ニヨリ輸出ヲ增加シ得ルコトハ必然ニシテ可ナリ。
(ハ)爲替下落ニ因ル物價騰貴ハ資本逃避ヲ誘發シ經濟的恐慌ヲ惹起スルノ虞アリ。
(ニ)爲替ノ低落停止ハ所謂ノ事情ノ變化ニヨリ輸出ヲ增進シ一國ノ經濟ノ發展ヲ阻害スル虞アリ。

(五)結論

一、二ヶ故業論者ノ主張ハ理論上ニ於テ爲替相場低落ニヨリ輸出ヲ增進シ國內產業ヲ發展セシメ、延イテハ國民需要ノ增大ヲ來スノ利アルヲ認ムルモ、現ニ我國ノ如ク國民購買力ノ不足ト對外貿易ノ不振トニ惱ム國ニ於テハ、爲替ノ低落ハ物價ノ騰貴ヲ來シ、國民ノ生活ヲ脅カシ、延イテハ國內產業ノ發展ヲ阻害スルノ虞アリ。

以上爲替相場堅持ノ問題ヲ繞リテ、賛否相爭フ所アルカ、我国ノ現狀ニ照シ何レニ與スヘキヤ、輕々ニ斷シ難キモノアリ。

爲替維持論ニ於テハ爲替下落ハ必然的ニ物價騰貴ーインフレーションヲ來スト云フモ、通貨ノ對外價値（爲替）ト對内價値（物價）トハ必然的ニ相伴フモノニアラス、夫々獨立ノ原因ニヨリテ增減スルモノナリ。只爲替下落セハ、除ロニ、物價ノ騰貴ヲ來スハ普通ノ現象ナレ共其モ一国ノ經濟上貿易品ノ占ムル程度如何ニ依ルモノニシテ直ニ悪性インフレーションニ移行スルモノトハ考ヘラレス。

又堅持論ニ所謂爲替一度低落センカ其停止スル所ヲ知ラス、本邦經濟ヲ根低ヨリ破壞スヘシト云フハ、放棄論ノ云フ如ク稍杞憂ニ近シト雖モ、果シテ購買力ノ遽ニ停止スルヤ否ヤハ疑問ニ屬ス。

思フニ、爲替相場變動ノ要因ハ多々アルモ、根本的ニハ、一国ノ国際收支ノ如何ニ依リ、更ニ右国際收支ノ現在ノ認識、將來ノ見透、一国ノ政治、財政、軍事社會各般ノ事情ノ豫測並ニ廣ク国際金融情勢ト投機心理等ニ依リ決定サルモノノ如シ。

而シテ之ヲ我国當面ノ問題トシテ考察スルニ、戰時異常ノ際ニ在リテハ、假令爲替低落スルモ生産ノ減少需要ノ増加、物資ノ缺乏等ノ原因ヨリ輸入カ絶對的ニ輸出ヨリ重要ナル地位ヲ占ムルニ至ルヲ以テ、爲替相場ヲ引下クル時ハ国際收支ノバランスハ一層悪化シ爲替ハ更ニ低落ノ一路ヲ辿ルニ至ル。殊ニ事變カ愈々長期抗戰ニ入リ、日支双方爲替維持ニ全力ヲ傾注スルノ際列国ニ對スル信用維持ノ點ヨリスルモ、又国民ノ国内經濟信頼ノ點ヨリスルモ輕々ニ、一忘二片放棄ヲ許サス、或ハ爲替相場ノ低下ヲ以テ我国産業ノ保護ト輸出増進ニ資セムトスル所論アルモ、我国現下ノ輸入能力ハ大部分軍需資材ト輸出用原料品ニ集中サル、以上、爲替低落ニ基ク輸入物資高ハ戰費ノ増大ト輸出コスト高ヲ招來スルハ必然ナリ。

要スルニ、本事變中ニ爲替相場ヲ低下セシムルハ極メテ不利ニシテ、寧ロ国際收支支拂超過分ハ日銀金準備ノ現送ヲ行ヒ、飽迄一志二片ヲ堅持スルヲ至當ト信ス。尤モ本事變カ遠カラス解決サルヽモノトノ前提ニ於テ斯ク結論スルモノナリ。

第六　對外支拂能力

對外支拂能力

(一)事變直後ノ能力

一、事変發生乃至金評價替直後（昭和十二年八月）ノ本邦對外支拂能力ハ次ノ如ク合計約十三億五千万円見當ニ及ヘリ。（單位百万円）

日銀金準備保有高	八〇一
金資金特別會計金保有高	三四〇
滿洲中央銀行金保有高	一三四
爲替資金	八〇
計	一、三五五

二、右八月以前ノ期間即チ七月迄ノ七ケ月間ニ於テ新買上金累計九〇、〇一〇千円ニ達シ、金現送ハ累計四四八、五三二千円ニ上レリ。

三、昭和十二年中ヲ通シ本邦對外貿易尻ハ入超六億三千六百万円、滿洲国貿易尻ハ同シク二億四千三百万円ニシテ日滿一体入超八億八千万円弱ト推計セラル。

四、事変以後、即チ昭和十二年八月以降、同年中ニ於イテ（五ケ月累計）對外決濟資金調達ノ爲メ現送セラレタル金ハ累計四一三、〇〇〇千円ニ

趨セリ・此期間ニ於ケル金買上高ハ計九、〇〇〇千円ナリ・此ヲ一年中通計セハ、新金買上高ハ約一億八千百万円ニシテ、金現送高ハ約八億六千万円ナリ・

(二)昭和十二年末ニ於ケル本邦對外支拂能力ハ、上ノ移動ヲ見ル結果トシテ、次ノ如キ地位ヲ示スニ至レリ・

（単位、百万円）

日銀金準備保有高	八〇一
金資金特別會計金保有高	一、三〇
滿洲中央銀行金保有高	三一〇
爲替資金	一二六
計	九四
昭和十二年八月當時トノ比較（減）	九一
新買上金（八—十二月）	一八三
純減少	

昭和十三年上半期ニ於ケル本邦国際收支ハ計數未タ詳ナラサレトモ、此ヲ五月迄ノ五ケ月間ニ徹スルニ次ノ如シ（単位、百万円）

帝国貿易尻　入超　一、三〇

滿洲國北中支分貿易尻　入超　一五四
計尻ブロツク一体　同　三〇四

(三)此期間五ケ月ニ於テ新金買入高ハ約七三〇〇〇千円ニシテ、他面、金現送高ハ約二億円ニ達セリ。而シテ六月當時ノ對外支拂能力ハ大体次ノ如キ地位ニアリ。

日銀金準備保有高	八〇一
金拂金特別會計金保有高	〇
滿洲中央銀行金保有高	二五
爲替資金	二〇〇
計	一〇二六
昭和十二年十二月當時トノ比較（減）	二三五
新買上金（一一—五月）	七五
純減少	二一〇

右ノ外爲替資金以外或程度ノ外貨資金アレトモ其ノ中、既ニ約三千万円ヲ處分シ、更ニ六月以後ニ於テ二千万円ヲ處分ス。

以上ヲ綜合シ各時期末對外支拂能力現在高ヲ次ノ如ク推定ス。

（單位百万円）

年（昭和）月	一二・八	一二・一二	一三・六
日銀金準備	八〇一	八〇一	八〇一
金資金特別會計	三四〇	一五〇	〇
滿銀保有金	一三四		二五
爲替資金	八〇	三一〇	二〇〇
計	一、三五五	一、二六一	一、〇二六
對前期比較		(一)九四	(一)一三五
新買上金		九一	九〇×
全要失		(一)一八七	(一)三二五
外貨資産動員濟ノ分			三〇
外貨資産動員豫定分			二〇
下半期新買上金見込額			一六〇
爲替資金ヲ除ケル支拂手段總額（一三・六現在）			一、〇〇六

（日銀、滿銀、外貨資産、新金）

×一一六月

外貨資產中、今後ニ於イテ尙ホ動員シ得ヘク見込マル、分ハ精々一億円程度ト推定セラル。

(三) 本年度ニ於ケル輸出入額ハ

輸出	一七〇〇	(百万円)
輸入	二四〇〇	
差引入超	七〇〇	

ト豫想セラル。此ニ對シ、本年度新買上金ヲ總額一五〇百万円ト豫定セハ差引四五〇百万円ヲ保有對外支拂手段ニヨリ調達セサルヘカラサル計算トナル。

仍テ本年度ノ国際決濟狀況並ニ來年度ヘノ繰越支拂手段ニ對シ爲替資金ニハ手ヲ着ケサルモノトシテ次ニ一應ノ見透シヲ試ミタリ。貿易外收支ハ差引零ト見込ミタレトモ事実上若干ノ支拂超過トナルヤモ知レサルナリ。

昭和十三年度国際決済見遊シノ試表（單位、百万円）

輸出代金	一七〇〇
日銀金準備	八〇一
満銀金保有高	一五
新買上金見込額	一五〇
外貨資産處分見込額	五〇
計	二八二六
輸入代金	二四〇〇
差引次年度繰越見込額	四二六

（備考）昭和十三年下半期中、對外支拂手段減少見込額（單位、百万円）

年（昭和）月	一二・六	一二・一二	差引下半期中減少見込額
日銀金準備	八〇一	四二六	二七五
満銀保有金	一五	〇	一五
新金下半期豫定額	一六〇	〇	一六〇
外貨資産動員豫定	一〇	〇	一〇
計	一〇〇六	四二六	五八〇

右ニ依リテ繰越サレタル四億二千余万円ノ支拂手段モ国際収支ノ実情今日ノ如キニ於イテハ恐ラク昭和十四年末ヲ俟タスシテ涸渇スル惧アリ。

而シテ、二億円程度ノ為替資金ハ今日ノ如キ貿易金融情勢ニ於イテハソノ減額ヲ極力回避スヘキ金額ト思量セラル。

(五)過去ニ於イテ民間ニ流入シ保蔵セラレタル金ノ総量ハ詳ナラサレトモ計算上ノ累計ハ約八、九億円以下ト見ル事ヲ得。此内、現実ニ動員シ得ヘキ量ニツキテハ、仮令立法的手段ニ訴フル場合ト雖、恐ラク二億円ニモ満タサルヘシト思量セラル。

銀貨ハ総額名目價値約三億円ニシテ、現実ノ回収鋳潰價値約一億円前後ト推算セラル。

新産銀ハ昭和十一年度約三六〇瓲、千八百万円程度ナリ。民間退蔵銀ハ動員可能額、金ヨリモ少額ニシテ高々一億円程度ナルヘシ。

右通計実際上約四億円見當ヲ獲得スル程度ナルヘシ。然レトモ此等ノ金銀ヲ動員スルコトハ全ク非常ノ手段ニ属ス。

外国ニ於ケルクレヂット設定ハ、若干件数ヲ計フレトモ總計数千万
円程度ニ止リ、到底多クヲ期待シ得サルモノト認メラル。
今後ニ於イテモ亦タ此ニ望ヲ嘱スルハ殆ト徒爾トイフヘシ。

第七勞務

勞務

(一)技術員

戰時經濟ノ進展ニ伴ヒ工業技術員ノ需要モ亦當然活況ヲ呈シツツアリコレニ對スル供給ハ工業系統大學・專門學校年々ノ卒業生（註一）ヲ以テ充當セル現況ナルカ、ココニモ供給ノ絶對的不足出現セリ・コレヲ昭和十二年度卒業生ニツキ檢スルニ（註二）、民間工業業ノ求人申込（註三）一三、四九四名ニ對シ卒業生ハ三、三三六名、約二四・七%ノ供給力アルノミ・而モソノ中實際就職セル者ハ二、四九〇名ニシテ、申込數ニ對シ約一八・五%ヲ供給シ得タルニ過キス・スナハチ、本年度ノ申込ニ對シテハ四年間ノ卒業生全部ヲ以テスルモ尙且充足シ得サル狀態ナリコノ關係ヲ分析セル需給狀態一覽表ヲ揭クレハ次ノ如シ・

工業技術員需給狀態一覽表

	申込數(a) 專門學校	大學	計	就職數(b) 專門學校	大學	計	供給不足(c)	就職率 b/a	不足率 c/a
陸海軍(A)	一、二四二	一五五	一、三九五	一〇九	四五	一五四	一、二四一	一一・〇	八九・〇
軍需產業(B)	六、七四五	一、九八一	八、七二四	一、一八二	五四〇	一、七二二	七、〇一二	一九・六	八〇・四
金屬	一、〇一七	四二二	一、四三九	一七九	一〇三	二八二	一、一五七	一九・六	八〇・四
機械器具	二、五五八	六二四	三、一八二	四八五	一九〇	六七五	二、五〇九	二一・二	七八・八
造船	三七〇	一二五	四九五	七〇	四九	一一九	三七六	二四・〇	七六・〇
化學	一、七五七	四一一	二、一六八	三一二	九三	四〇五	一、七六三	一八・七	八一・三
鑛業	一、〇四一	三九九	一、四四〇	一三八	九五	二三三	一、二〇七	一六・二	八三・八
以上小計(A+B)	七、九八五	二、一三四	一〇、一一九	一、二九一	五七五	一、八六六	八、二五三	一八・四	八一・六
平和產業(C)	二、八五五	九一五	三、七七〇	五六七	二一一	七七八	二、九九二	一六・五	八五・七
紡織	一、二〇五	二一七	一、四二二	一五三	三一	一八四	一、二三八	一二・九	八七・一
窯業	二〇五	二二	二二七	二四	五	二九	一九八	一二・八	八七・二

標準労働者	男	女	男	女	男	女
紡織	一、二〇	一、〇〇	一、〇〇	〇、八〇	一、〇〇	〇、八〇
製材及木製品	一、〇〇	〇、八〇	〇、八〇	〇、六四	〇、八〇	〇、六四
印刷製本	一、二五	一、〇〇	一、〇〇	〇、八〇	一、〇〇	〇、八〇
食料品	一、二五	一、〇〇	一、〇〇	〇、八〇	一、〇〇	〇、八〇
ガス及電気	一、二五	一、〇〇	一、〇〇	〇、八〇	一、〇〇	〇、八〇
雑	一、二五	一、〇〇	一、〇〇	〇、八〇	一、〇〇	〇、八〇
畜水産其ノ他	一、二五	一、〇〇	一、〇〇	〇、八〇	一、〇〇	〇、八〇
民間工鑛業小計（B十C）	一、二五	一、〇〇	一、〇〇	〇、八〇	一、〇〇	〇、八〇
準港軍以外官公署	一、二五	一、〇〇	一、〇〇	〇、八〇	一、〇〇	〇、八〇
学校・研究所	一、二五	一、〇〇	一、〇〇	〇、八〇	一、〇〇	〇、八〇
総計	一、二五	一、〇〇	一、〇〇	〇、八〇	一、〇〇	〇、八〇

備考 一、職業紹介ハ現ニ紹介ヲ行ヒツヽアル職業ニ就テ見ルニ、甲乙丙ノ三種ニ分ケ、甲ハ熟練ヲ要スル職業、乙ハ普通ノ職業、丙ハ単純労働ヲ要スル職業ヲ指ス

二、標準労働者トハ、甲ハ二十五歳ノ男子、乙ハ二十歳ノ男子、丙ハ二十歳ノ女子ヲ指ス

三、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

四、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

五、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

六、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

七、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

八、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

九、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

十、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

十一、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

十二、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

十三、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

十四、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

十五、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

十六、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

十七、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

十八、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

十九、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

二十、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

二十一、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

二十二、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

二十三、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

二十四、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

二十五、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

二十六、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

二十七、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

二十八、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

二十九、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

三十、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

三十一、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

三十二、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

三十三、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

三十四、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

三十五、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

三十六、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

三十七、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

三十八、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

三十九、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

四十、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

四十一、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

四十二、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

四十三、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

四十四、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

四十五、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

四十六、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

四十七、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

四十八、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

四十九、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

五十、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

五十一、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

五十二、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

五十三、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

五十四、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

五十五、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

五十六、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

五十七、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

五十八、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

五十九、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

六十、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

六十一、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

六十二、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

六十三、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

六十四、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

六十五、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

六十六、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

六十七、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

六十八、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

六十九、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

七十、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

七十一、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

七十二、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

七十三、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

七十四、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

七十五、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

七十六、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

七十七、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

七十八、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

七十九、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

八十、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

八十一、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

八十二、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

八十三、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

八十四、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

八十五、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

八十六、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

八十七、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

八十八、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

八十九、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

九十、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

九十一、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

九十二、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

九十三、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

九十四、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

九十五、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

九十六、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

九十七、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

九十八、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

九十九、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

百、標準賃金ハ、甲ハ熟練ヲ要スル職業ニ就ク二十五歳ノ男子ノ賃金ヲ指ス

ノ就職先ハ繊維工業ニ於テ最モ多ク、次デ食料品工業ニ於テ多シ。

不足率ハ、一八七ニ於テ最モ高ク、次デ一九三ニ於テ高シ。

八〇・四%ナリ。就職率ハ、一九三ニ於テ最モ高ク、次デ一九三ニ於テ高シ。

繊維工業ニ於ケル就職率ハ、一九三ニ於テ最モ高ク、次デ一九三ニ於テ高シ。

給与ハ、一九三ニ於テ最モ高ク、次デ一九三ニ於テ高シ。

加工ハ、一九三ニ於テ最モ高ク、次デ一九三ニ於テ高シ。

スルトキハ、現ニ斡旋ヲ行ヒツヽアル職業ニ就テ見ルニ、甲乙丙ノ三種ニ分ケ、甲ハ熟練ヲ要スル職業、乙ハ普通ノ職業、丙ハ単純労働ヲ要スル職業ヲ指ス

軍需関係需要ニ對スル不足率ハ約八一・六%ニ達セリ・個々ノ部門ニツキソノ絶對數ヨリ見ルトキ、需要ハ機械器具工業ノ三、一八二ヲ最高トシ、化學工業二、一六八、鑛業一、四四〇、金屬工業一、四三九コレニ次キ、造船業四九五ヲ最低トス・コレニ對スル供給ハ、機械器具工業六七三、化學工業四〇五、金屬工業二八二、鑛業二三三、造船業一一九ノ順ニシテ、供給不足數ハ需要ノ順位ニ從フモ、申込ニ對スル供給不足ノ割合ハ、鑛業八三・八%ニシテ不足最モ甚シク、化學八一・三%、金屬八〇・四%ニシテコレニ次キ、機械器具及ヒ造船ハ、ソレソレ七八・八%、七六・〇%ニシテ他部門ニ比較スレハ幾分不足緩和ノ狀ヲ呈スルモノノ如クナルモ、而カモ最低ニシテ尚七六%ヲ越ユル不足ハ注目ニ値スルモノト言フヘシ。

次ニ平和產業關係ノ需給ヲミルニ、需要數四、七七〇、就職數七七八差引供給不足三、九九二ニシテ、コレヲ軍需產業ニ比較スレハ、需要ハ、ソノ五四・七%、就職數ハ約四五・四%、供給不足ハ約五六・九%ニ該當ス・スナハチ絶對數ニオイテミルカキリ軍需產業ノ約半數ト考フルコ

トヲ得。シカレトモ、ソノ不足率ヲ個々ノ部門ニツキ檢スルニ、印刷製本業ノ七・二%、製材及木製品業ノ二八・〇%ヲ例外トシテ、他部門ハ最高九二・一%（養蓄水産其他工業）、最低八〇・五%（電氣及瓦斯業）ニシテ何レモ軍需產業ヨリ高率ヲ示セリ。

（註）

「大學、專門學校卒業生ノ他、甲種實業學校中、工業・農業・水產系ノ卒業生約一五、〇〇〇就職者約六〇%（昭和十一年）ヲ數フルモコノ種卒業生ハ小經營以外ニアリテハ直チニ工業技術員トシテ作業スルモノニ非スシテ、工場內實習ヲ經テソノ一部ノミ技術員トナルノ實情ニアルタメ、本調査ニオイテハ考慮外ニ置クコトトセリ。

二、本調査ノ資料トシテハ、企畫院內政部「官立大學工學部及官立鐵工專門學校昭和十二年度卒業者就職狀況調」（昭和十三年六月）ヲ用ヒタリ。

本年度卒業生トシテハ、更ニ私立大學・專門學校卒業生ニツキテモ調査スルヲ妥當ト認ムルモ、現在コノ資料モ入手シ得サリシタメ今

同ハ除外シ、タダ官公立ノミニカキリ調査スルニトトメタリ・コノ系統ノ卒業生ハ約八〇〇名ト推定サルルモ、就職率ハ官公立ニ比シ幾分劣ルモノト見ラル・

尚申込中ニハ、供給不足ヲ見越シタル若干ノ二重申込アルヘシト推定サルルモ、現在ノ旺盛ナル生産活動ヲ以テスレハ、将来ノ對策上、若シ適格者アル限リ何レモ採用スヘシト信シ、二重申込ヲ一應考慮外ニオクモ大過ナカルヘシ。

(二)職　工

職工供給能力ハ昭和十一年末ヲ以テ飽和點ニ達シ、爾後需要ニ對シテ絶對的不足ヲ生セシメツツアリ。以下ニ昭和十二年末ノ狀勢ヨリ判斷セル向フ一年間ノ職工需給狀況ヲ數量的ニ推計スヘシ。

(1)供給能力・厚生省職業時報四月号ニ依ルニ、昭和十二年十一月中ニ於ケル軍需職工ノ職業紹介所ヲ通シテナセル就職數ハ二万人ニシテソノ內譯ハ第一表ニ示ス如シ。

第一表　職工供給能力

	昭和十二年十一月末職業紹介ニ依ル就職数	同期推定就職者総数	同期ノ情勢ニ基ツク一ケ年間ノ労力供給能力推定
機械器具工業	一一〇六〇人	一三八〇〇人	一六三六〇〇人
船舶車輛工業	一一七八	一四六〇〇	一七五二〇
金属工業	三五二四	六九〇〇	八二八〇〇
化學工業	一一六七	一四四〇〇	一七二八〇
鑛山業	一五九五	二八〇〇	五三六〇〇
小計	二〇五二二	二六四〇〇	三一六八〇〇

然ルニ昭和十一年実績ニ依レハ我国ノ工場鑛山職工年増加三八万人ノ中、職業紹介所ヲ通スルモノ三〇万、即チ、八割ヲ占ム。（内閣統計局労働統計要覧昭和十二年版）

故ニ、二万ノ職紹ニヨル就職数ヲ八割トシテ換算スレハ、同期ニ於ケル全就職数ヲ得ル勘定ナリ。（但シ、鑛山ハ縁故者募集及勧誘者募

集多キヲ以テ五割トシテ換算）。然ル時ハ、二万六千ノ就職總數ヲ得ヘシ。コノ一ケ月間ノ情勢ヲ基礎トシテ一年間ノ就職者數ヲ推定スレハ三一万七千ノ供給能力トナル。

(2)需要。同シク職業時報ニ依レハ、昭和十二年十一月末ニ於ケル軍需求人數ハ、職業紹介所ニ現ハレタルモノ三万九千ニ上ル。（第二表參照）之ヲ前述ト同様ノ方法ニ依リ一年間ノ需要ニ換算スレハ六二万五千ヲ得。（第二表參照）

第二表　需要

	昭和十二年十一月末職業紹介ニヨル求人數	同期推定求人總數	同期情勢ニ基ツク一ケ年間ノ労力需要推定
機械器具工業	二〇八九一人	二六一〇〇	三一三二〇〇
船舶車輌工業	一八五一	二三〇〇	二七六〇〇
金屬工業	九五四四	一一七〇〇	一四〇四〇〇
化學工業	三二四七	四〇五〇	四八六〇〇

	職業紹介ニ因ル求人数 昭和十二年十一月末	推定求人総数 同	一ケ年間ノ労力補填推定数 同期間需要ニ基クヘシ
化學工業	五二四七人	四〇五〇	四八六〇〇
金屬工業	六五四四	一一七〇〇	一四〇四〇〇
船舶車輛工業	一八五一	二五〇〇	二七八〇〇
機械器具工業	二〇八九一	二六一〇〇	三一五二〇〇

第二表　需　要

万五千ヲ得。（第二表参照）

右需要（乙）ヲ前述ト同様ノ方法ニ依リ一年間ノ需要ニ換算スレハ六二
需求人数ハ、職業紹介所ニ現ハレタルモノ三万九千ニ上ル。（第二
(3) 需　要。同ジク職業紹介所ニ依レハ、昭和十二年十一月末ニ於ケル軍
ハ三一万七千ノ供給能力トナル。
（シ。コノ一ヶ月間ノ需要ヲ基礎トシテ一年間ノ就職者数ヲ推定スレ
業多キヲ以テ五倍トシテ概算）。然ル時ハ、二万六千ノ就職総数ヲ得

鑛山業	三九三四	八〇〇〇	九六〇〇〇
小計	三九二六七	五二一五〇	六二四八〇〇

(3) 供給不足。推定需要ヨリ推定供給数ヲ差引キテ得ルモノハ供給不足分ト見做シ得ヘシ。ソノ総数大約三〇万ニシテ、最モ不足ノ甚タシキモノハ機械器具ノ十四万八千、次イテ鑛山、金屬、化學、船舶車輛トナル。（第三表参照）

然ラハ、不足職工ノ技術的組成如何。經驗工ヲ勤續年限五—九年ノ者トシ、熟練工ヲ十年以上ノ者トシテ、各産業中ニ兩者ノ占ムル割合ヲ検出シテ、コレヲ不足数ニ乘シテ求メタル者カコレナリ。經驗工及熟練工ノ總職工数中ニ占ムル割合ハ、内閣統計局労働統計要覧昭和十二年版ニ依リテ検出スレハ次ノ如シ。

	経験工	熟練工
機械器具工業	一八・二%	二八・三%
船舶車輛工業	一二・六	二六・七
金属工業	二二・二	二六・八
化学工業	二二・三	二六・四
鑛山業	二二・四	二七・二

コレニヨリ不足ノ実数ヲ求ムレハ、第三表ニ示ス如ク熟練工総数九四千、経験工不足総数六万五千トナル・コレヨリ、総数中、経験工ノ不足率ハ二一・一%、熟練工不足率ハ三〇・七%トナリテ、両者ニテ不足総数ノ五一・八%即チ過半ヲ占ム・

第三表　供給不足

	不足職工総数	ソノ中 経験工	ソノ中 熟練工
機械器具工業	一二七六〇〇人	二六八六〇人	二六八二〇人

造船車輛工業	一〇〇八〇	一五七〇	五七二〇
金属工業	五八六〇〇	一五六五〇	二一五六〇
化學工業	三一五二〇	七三五〇	八二七〇
鑛山業	六二四〇〇	一五八五〇	二五二〇〇
小計	三〇八〇〇〇	六五二六〇	九四五八〇

(三)失業者

厚生省調ニ依ルニ、給料生活者及日傭ヲ主トセル失業者ハ、昭和五年産業合理化以來、恆常的ニ三十万ヲ數フ。コハ情勢ノ如何ニ關セス、日本カ常ニ有スト見ラルヘキ顯在的失業者ナラン。於是、特ニ時局ノ産業編成替ニ依リテ生スト考ヘラルル失業、モシクハ半失業ヲ別ニ算定スルコトヲ必要トス。失業者ヲ生スル根本原因トシテハ、

原材料ノ配給難

生産統制ニヨル操業短縮

消費統制ニヨル国内販路ノ萎縮

制裁的モシクハ自然的海外市場ノ閉塞

資金調達難

等ヲ数ヘ得ク、各種原因ノ輻湊スル所、巨大産業ト雖モ影響サル處少カラスト雖モ、先ツ最モ打撃ヲ被ムルコト多キハ、零細經營ナリト考フルヲ妥當トスヘシ。蓋シ、カクノ如キ零細經營ハ、平時ニアリテモ常ニ生存ヲ脅カサルルモノナルニ、一旦經濟界ニ異變ヲ生センカ、容易ニ失業者ノ大量發生ノ温床トナルハ必至ナレハナリ。コノ見地ニ從ヒテ石ノ失業原因ヲ考慮シツツ集計シタル最低失業者ト見做サルヘキモノ、工業ニアリテハ七十万、商業ニアリテハ十万、合計八十万ヲ數フ。

ニアリテハ七十万、商業ニアリテハ十万。合計八十万ヲ数フ。
失業原因ヲ考察シツツ集計シタル数値ハ失業者ト見做サルヘキモノ、工業
業者ノ大量発生ノ深刻ナルハ必要ナレハナリ。コノ見地ニ於テ百ノ
生存ヲ脅カサルルモノナルニ、一旦事業不振ニ陥ラハ生活ノ途ヲ失ヒ、容易ニ失
ルヲ安富トスヘシ。然シ、カクノ如キ零細企業ハ、平時ニアリテモ常ニ
カラスト嫌キ、先ツ彼モ行業ヲ救ムルコト多キハ。零細企業ナリト考フ
学ヲ要スル職ヲ得ン。各種原因ノ競争スル中、巨大企業ト雖モ影響セサルハ少
賃金調整遅緩
働減防ヲシクハ自然的海外市場ノ開拓
消費奨励ニヨル国内購買ノ増加
生産統制ニヨル産業安定

第一表 工業ノ失業者

	昭和五年国勢調査（A）	昭和五年工場統計（B）	C（AヨリBヲ減シタルモノ）
煉瓦	八五一八人	五四四〇人	三〇七八人
陶磁器	四九六五五	一九九五九	二九六九六
硝子及硝子品	二六八四二	一六四一二	一〇四三〇
セメント・石灰	二七二一一	一五二六二	八九四九
鋳物	四七九五〇	二五五〇九	一九六二一
鍍金	一〇五〇〇	四九四一	五五五九
皮革製品	一五六五六	四五〇七	八五二九
農業用 土木建築用機械	一五〇六五	五二五二	九八一一
電球	八五四七	六四六五	七八八四
薬品・売薬	五六二七六	二七二七一	一五〇〇五
石鹸化粧品	一〇五九五	六七五五	五六四二

四七七六六人

三四五〇九

生糸	四六八、八七四	五八八、五二一	八〇、五五五
製綿	一八、四九四	七、六〇五	一〇、八九一
眞綿	一、七八七	一六五	一、六二二
撚糸	二五、九八〇	一四、一七五	一一、八〇五
絹織物	一七九、六二六	七五、一八八	一〇六、四五八
綿織物	一五八、〇八四	一一六、四〇五	四一、六七九
メリヤス	四五、〇一六	一九、〇六五	二五、九五六
刺繍	八、一八四	七六五	七、四二一
漂白、精練、染色	一二二、六七六	四七、二五一	七五、四四五
衣服・裁縫	一九五、九四六	五二、二五二	一六二、六九四
帽子	二二、四五五	二、二六一	二〇、一九二
貝、角、甲、牙具	八、九六四	一八九	八、七七五
漆器	二九、九一六	一、一六五	二八、七五五
失業者小計			六九五、八二八

五二二、五〇四

第二表　商業ノ失業者

	露店行商人(A)	商業有業者中製造ニ從事スル者(B)	計(AニBヲ加ヘタルモノ)
石材、煉瓦、瓦、土管、セメント、土石類	一七四人	五六二八人	五八〇二人
家具、建具指物類	六六七	七一二五	七七九二
疊表、莚、荒物類	五二八九	二五七七	五六六六
陶磁器、硝子品類	一八一五	六一九	二四五二
金属材料、金属器具	五九一一	一八五〇	五七六一
皮革、擬革、同製品	一五一	五〇二	六五五
織物、被服類	二五二一七	一二四九五	三七七一〇
綿、糸、綿物、組物類	二七六五	九九五	五七五八
玩具、運動具、遊戲品	五八五七	四五二	四五〇九
小間物、洋品類	九五九五	一五七一	一〇九六九
薬品、染料、顔料、化粧品	二七〇九四	五八七	二七六八一

第二表　商業ト失業者

	各店商人（A）	店ニ従事スル者（B）商業有業者中ノ[illegible]	計（A＋B）[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
玩具、運動具、遊戯品	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
金属材料、金属器具	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

度量衡、科学的機械楽器	一二九六	四一一九	五四一五
失業者小計	六九六〇九	三七三一六	一〇六九二五

工業失業者中、部門別ニシテ最大ナルハ、平和産業ノ大宗タル紡織業ニシテ、衣服裁縫ノ十六万、綿織物ノ十万ヲ初メ、総計五〇万ニ達シ、工業失業者中ノ七割ヲ占ム。次イテ窯業関係ノ四万ヲ多シトス。純軍需関係ト見ラルヘキ鋳物、鍍金、皮革ニアリテモ合計三万ノ失業量ニ達ス

但シ、玆ニ一言注意スヘキハ、右ノ失業量推定ノ基礎ナリ。商工省工場統計ハ五人以上職工ノ集計ナルヲ以テ我国工業人口中ヨリ之ヲ減スレハ五人以下ノ零細経営人口ヲ得。コノ中ヨリ、失業原因ヲ考慮シツツ、失業ヲ発生スヘシト見ラルル部門ヲ選ヒテ得タルモノ、即チ第一表ニシテ右述ノ数字ハ第一表ヨリノ摘録ニ他ナラス。我国最新ノ完全国勢調査ハ昭和五年ヲ措イテナキヲ以テ、工場統計モ亦同年ヲ選ヒタリ。

然ラハ、現下ニアリテ、零細経営ノ数モ大イニ変化アリタリト考ヘラル

ヘキモ、大勢ハ決シテ然ラス・蚕シ、五人以上職工總数ハ昭和五年ノ一七〇万人ヨリ現在ノ三百万人ニ増加ヲ示シタルモ、工業有業人口マタ昭和五年ノ五九〇万人ヨリ現在七百万人ニ増加ヲ見タリト推計スルモ大過ナカラン・故ニ零細經營工業人口ハ、四百万台ヲ依然堅持スト考ヘテ誤ナカルヘク、右ノ七〇万失業推定ハ現在ノ大勢トナシテ差支ナカルヘシ。

次ニ商業ニ就キ述ヘン・商業人口中、物品販賣業人口最大ニシテ、先ツ七割ヲ占ムト見ラル・物品販賣業ハ又、工業ト有無相通スルコト多キ部門ニシテ、工業労働者ヘノ轉業供給源タリ・昭和五年ノ国勢調査ニ基キ、物品販賣業ヨリ生スト見ラルヘキ失業量ヲ推定センニ、生活基礎最モ弱キ者ハ露天行商人ニシテ、時局轉換ノ被害甚大ナルヘク、商業有業者中製造ニ従事スル者（職人）モマタ之ニ次イテ原料雜販路雜等ノ為、失業ノ怖レアリト考ヘラルヲ以テ、被害部門ヲ摘錄シテ、集計セリ・露天行商人六万九千、職人三万七千計十万ヲ得タル所以ナリ。同年ニ於ケル商業有業人口二一〇万中、物品販賣業人口一五二万ナリシモ、前述ト同様ノ理由ニ基ツキ、人口構成ニハ些シタル変化ナシト見テ、昭和五年

ノ方針ヲ現在ニ適用セシ方第十ノ・ノ

同教ノ教会ヲ訪問シ，信者ノ実際生活ニ関スル調査ヲ為シ，其ノ結果ヲ報告スルコトヲ命ジタリ。

一　同教ノ教会ハ，全国ニ亘リ，信者ノ数ハ，約二百万人ニシテ，其ノ内，約三十万人ハ，日本人ニシテ，其ノ他ハ，朝鮮人，支那人，露国人，英国人，米国人，独逸人，仏蘭西人，伊太利人，其ノ他ノ外国人ニシテ，教会ノ数ハ，約千五百ニシテ，其ノ内，日本人ノ教会ハ，約三百ニシテ，其ノ他ハ，朝鮮人，支那人，露国人，英国人，米国人，独逸人，仏蘭西人，伊太利人，其ノ他ノ外国人ノ教会ニシテ，教会ノ建物ハ，大抵，煉瓦造ニシテ，其ノ構造ハ，頗ル堅牢ニシテ，且ツ，美麗ナルモノ多シ。

二　教会ノ組織ハ，各教会ニ於テ，多少ノ差異アルモ，大体ニ於テ，教会ノ最高機関ハ，信者ノ総会ニシテ，其ノ総会ニ於テ，教会ノ重要事項ヲ決定シ，教会ノ役員ヲ選挙ス。教会ノ役員ハ，牧師，長老，執事，会計，書記等ニシテ，牧師ハ，教会ノ宗教上ノ事務ヲ掌リ，長老ハ，牧師ヲ補佐シ，執事ハ，教会ノ慈善事業ヲ掌リ，会計ハ，教会ノ金銭出納ヲ掌リ，書記ハ，教会ノ庶務ヲ掌ル。

三　教会ノ経費ハ，信者ノ寄附金ヲ以テ，之ニ充ツ。寄附金ノ額ハ，信者ノ収入ニ応ジテ，定メラレ，大抵，収入ノ十分ノ一乃至二十分ノ一ヲ寄附スルモノ多シ。

四　教会ノ礼拝ハ，毎日曜日ニ行ハレ，其ノ他ニ，祈禱会，聖書研究会，婦人会，青年会，日曜学校等ヲ開キ，信者ノ教育ニ努メ，又，伝道ノ為メ，街頭ニ於テ，説教ヲ為シ，又，病院，孤児院，養老院，救済所等ヲ設ケ，慈善事業ニ従事ス。

五　教会ノ信者ハ，概ネ，中流以上ノ人ニシテ，貧民ハ，極メテ，少ナシ。

六　教会ノ信者ハ，概ネ，教育アル人ニシテ，学校教育ヲ受ケタル者，多ク，又，教会ニ於テ，教育ニ努メ，日曜学校ヲ開キ，青年会ヲ設ケ，又，聖書研究会ヲ開キ，信者ノ教育ニ努ム。

七　教会ノ信者ハ，概ネ，品行方正ニシテ，犯罪者ハ，極メテ，少ナシ。

八　教会ノ信者ハ，概ネ，勤勉ニシテ，怠惰者ハ，極メテ，少ナシ。

九　教会ノ信者ハ，概ネ，貯蓄心ニ富ミ，浪費者ハ，極メテ，少ナシ。

十　教会ノ信者ハ，概ネ，家庭ヲ重ンジ，家族ノ団欒ヲ楽シミ，家庭ノ和合ニ努ム。

十一　教会ノ信者ハ，概ネ，社会ノ公共事業ニ熱心ニシテ，之ニ協力スルモノ多シ。

十二　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ法律ヲ尊重シ，之ヲ遵守スルモノ多シ。

十三　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，尽力スルモノ多シ。

十四　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，犠牲ヲ払フモノ多シ。

十五　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，戦死スルモノ多シ。

十六　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，負傷スルモノ多シ。

十七　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，病死スルモノ多シ。

十八　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，戦没スルモノ多シ。

十九　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉職スルモノ多シ。

二十　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉国スルモノ多シ。

二十一　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉難スルモノ多シ。

二十二　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉死スルモノ多シ。

二十三　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉節スルモノ多シ。

二十四　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉義スルモノ多シ。

二十五　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉忠スルモノ多シ。

二十六　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉孝スルモノ多シ。

二十七　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉貞スルモノ多シ。

二十八　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉烈スルモノ多シ。

二十九　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉仁スルモノ多シ。

三十　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉礼スルモノ多シ。

三十一　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉智スルモノ多シ。

三十二　教会ノ信者ハ，概ネ，国家ノ為メニ，殉信スルモノ多シ。

ノ大後ノ發出ニ後午十ハ次第ニ依ル。

發著ノ細部ハ別ニ定ムル所ニ依ル。